徳島大学附属図書館蔵本分館について

医学部医学科６年　井上　夏子

　昨年夏、卒業試験・国家試験を控えた私達にとって勉強場所の確保というのは、ひとつ大きな問題でありました。大学内の勉強部屋で仲のよい数人で始める者、自分のペースでなければと自宅で始める者・・・長期戦となる試験勉強期間の過ごし方、その自分に合った方法を各々が編み出していきました。 そのような中で、図書館を拠点に選んだ友人は、当初数えるほどだったと記憶しています。

　書物・文献が揃っていること、開放感があること。これが図書館を選んだ友人の主な理由でした。一方で、開館時間が限られていること、自宅からの大量の資料や問題集・テキストを持ち帰らなければならないこと、あるいは話し声が気になる、といったことが図書館から足を遠のかせる一因でもありました。

　これらは様々な学部の人が利用する施設であるその性格上、仕方のない面もありましたが、もし可能であるならば・・・ということで学生からの希望をいくつか提示しました。これに関して図書館側も熱心に対応して下さり、多少の制限はあったものの、いくつかの点が改善されることとなりました。

　中でも大きかったのは試行期間ということではありましたが、21時まで（土日は16時まで）であった開館時間がその時間以降、それぞれの責任において24時まで利用可能となったこと、祝日などの閉館日も利用できるようになったことです。また個人の資料やテキストもカウンター前のロッカーに置かせて頂くことができました。この事で大変勉強しやすい環境となり、卒業試験期間であった秋には、それまで見かけなかったクラスメートの姿が多く見受けられるようになりました。

　朝9時から夜12時まで休憩を挟みながらも、山のように本を積んで勉強をする友人の姿に、
“よし、今日も頑張ろう！”
と随分影響を受けたものです。そして卒業試験も終わり、国家試験へ向けての年末年始の休館日をどうするか、というのが次なる問題でありました。これに関して年末年始は司書の方がおられないということで、確実に図書館を利用するクラスメートを二人一組で当番制とし、当番の学生がいくつかの設備管理を行いながら日々の記録を残しておくという方法で解決されました。

　国家試験を迎える２月には、後期試験を控えた学部生で図書館も溢れかえり、そのエネルギーは私たちにとって、また新たな刺激ともなりました。

　その頃クラスメートからは
‘もうすぐ図書館での勉強も終わりになると思うと嬉しい反面、長く皆で過ごしただけに少し寂しい気もするね。試験が終わっても来てしまいそう。’

といった言葉を耳にするようになり、いつの間にか生活の大きなウェイトを占めている図書館の存在に気づかされることもしばしばでした。

国家試験を終え、開放感を味わいながらも、図書館で‘疲れたなぁ’とつぶやきながら窓の外を眺めたり、居眠りしてしまったり、そしてまた勉強に戻り・・・そういった友人たちの姿を懐かしく思い出す今日この頃です。

このようにこの一年で利用しやすい環境が整ったとは言え、未だ幾つか改善すべき点が残されていると言わざるを得ません。

現在午後９時に閉館となり、その折学生は一度退出した後、入りなおさなければなりません。またそういった時間外利用の際には空調設備を利用することが出来ず、寒さ（暑さ）をなんとか凌ぎながらの勉強となります。些細なことではありますが、可能であるならば改善されていくべき点であると思われます。

また開館時間外の利用では学部生のマナーの問題も挙げられます。開館時間外である以上、安全性の面からも各人が責任を持って利用すべきであり、勉強の他に利用者として時間外には何に注意すべきで何をしてはならないのか、良く意識して利用して頂きたいと思います。それはまたより良い図書館環境を、続く次の学年に伝えていく、小さな心遣いでもあるのではないでしょうか。

最後になりましたが、私達学部生が図書館を少しでも利用しやすいよう、学生の意見に耳を傾け、その改善にご尽力くださった泉啓介附属図書館蔵本分館長、弘瀬課長を始めとして、お世話になった多くの図書館関係者の方々に厚く御礼申し上げます。そしてこれからも長く、図書館が多くの学部生にとって快適に学べる場であり続けて欲しい、そう心より願っております。